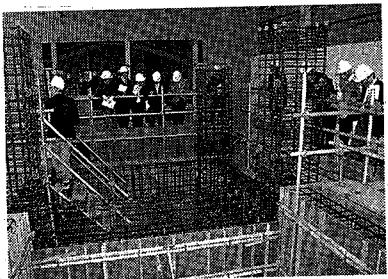


刊 建設產業新聞

2015年(平成27年)10月22日(木曜日)



スや強度の違いなど、100か所の間違いをえて織り交ぜた。施設は建設関連数十社の協賛を得て、8月から着工、サンエーテックが施工を担当した。施工にあたっては、「正しく配筋作業をする職人については、わざと間違えるのは逆に難しく、時間と目に見えない苦労がかかった」(赤間寿男サンエーテック取締役)といふ。施設は当面5年間使用するが、維持管理にも費用がかかるため、建設産業各社に協賛を要請している。

同施設は配筋検査の研究向けだけではなく、学生を対象に鉄筋・型枠工を通じた鉄筋造の基本的な構造を学ぶ事ができる。設計技術者は新工法

や新素材を知る契機ともなり、メーカーにとっても新商材や新工法をPRできるという様々なメリットを持つている。

鉄筋モックアップは国内では竹中工務店、清水建設、大林組の大手3社が所有しているだけで、JSCAとしては全国初。サンエーテックの赤間取締役は「鉄筋業界でも初の施設で、かなり注目されている」と語る。

完成後の運用について視察した福士JSCA技術委員長は、研修の対象を、JSCA会員、施工者、鉄筋工事業者、建設関連産業、学生とし、具体的な運用は今後、東北支部で具体的に検討。11月19日と12月30日に研修会を行う予定だ。